平成28年度研究助成【音楽振興部門】より

《貝殻節》継承のためのデータベース化と教材開発

鳥取大学　地域学部
准教授
鈴木慎一朗

1．研究目的

本研究の目的は、鳥取県の代表的な民謡である《貝殻節》のデータベース化と教材開発を通して、地域と学校教育との連携を図りながら、《貝殻節》の継承を図ることである。筆者のこれまでの調査によると、《貝殻節》は教科書に掲載されているものの、鳥取市内の小学校において実践されたのは、59％と定着しているとは言い難い[1)]。特に指導法に悩んでいる教師が多いことが明らかとなった。本研究によってこれらの問題を解消したい。なお、次期、学習指導要領改訂においても、郷土の伝統音楽は重視されている[2)]。

研究の方法としては第一に、《貝殻節》の音源、振付等の収集と分析を行い、データベース化を図る。その際にはデジタル保存とし、教材DVDを作成する。第二に、作成したDVDを活用した実験授業を鳥取大学附属小学校において実施し、教材としての有効性を検証する。検証の際には、子どもの反応や感想等を質的に分析する他、子どもを対象にアンケート調査も行い、量的にも検証する。第三に、小学校教員向けの『《貝殻節》指導法ハンドブック』を作成する。《貝殻節》の歴史的変遷、民謡の特徴を取り上げ、さらには上記のDVDを活用したモデル指導案も掲載し、実践的な内容とする。その際には、《貝殻節》の実践を行っている鳥取大学附属小学校等の協力も得る。第四に、鳥取市内の全小学校にDVDと『《貝殻節》指導法ハンドブック』を郵送する。その際、教師対象のアンケート調査用紙も同封し、後日、返信された調査結果に基づき、DVDと『《貝殻節》指導法ハンドブック』の教材としての有効性を検証する。

2．《貝殻節》について

かつて鳥取一帯の日本海では帆立貝が採れ、《貝殻節》は労働の際に唄う海歌であった。しかし、1929（昭和４）年を最後に帆立貝は採れなくなり、それと同時に《貝殻節》も廃れてしまった。そのような中、新民謡運動の影響も受け、1933（昭和８）年、コロムビアレコードから浜村温泉の宣伝歌として《新民謡　貝殻節》が出される（表１、図１）[3)]。1952（昭和27）年、《貝殻節》は「朝日放送民謡大会」で第一位となり、全国的にも定着する。現在では小中学校の音楽教科書にも鑑賞教材として扱われる[4)]。

浜村温泉では毎年夏に「貝がら節祭り」が開催されている。「貝がら節祭り」は、1987（昭和62）年、「見る祭りから参加する祭り」へと移行し、アップテンポにアレンジされ、平易な

表１　《貝殻節》の音源

	新民謡　貝殻節	正調　貝殻節	新曲　貝がら節
年	1933（昭和８）		1987（昭和62）
趣旨	浜村温泉の宣伝歌	元来歌われていたもの	「貝がら節祭り」のために編曲
担当	三上留吉採曲 松本穣葉子改詞 杉田良造編曲	浜村温泉貝がら節保存会	鈴木成弘編曲 梅津洋子振付
音楽	唄　中野忠晴 コロムビアオーケストラ 伴奏 クラリネット ヴァイオリン チェロ コントラバス ピアノ 吊鐘	唄　竹中義範 三味線 　福富　稔 尺八 　新田健司 太鼓 　前田義人 はやし 　桐谷秀穂	シンセサイザー 三味線 和太鼓 ドラム サックス ヴァイオリン エレキギター 　等
歌詞	６番まであり （録音は２番まで）	４番まであり	なし

写真１　《新民謡　貝殻節》SPレコード

振り付けの《新曲　貝がら節》が作成された。現在の「貝がら節祭り」の皆が踊る「総踊り」では、《新曲　貝がら節》が踊られている。また、《貝殻節》の実践に取り組んでいる鳥取市立気高中学校の運動会では、《新曲　貝がら節》と伝統的な《正調　貝殻節》が踊られている[5)]。

1999（平成11）年、「貝がら節ニューバージョンコンテスト」が浜村温泉にて開催され、全国から29曲応募があり、６曲が選ばれた[6)]。その他にも、《貝がら節パラパラバージョン》や韓国語バージョン、合唱編曲された《貝殻節》等もあり、多様な《貝殻節》がある。

ところで、上記に列記した曲は、浜村温泉を拠点に生まれた《貝殻節》である。前述の通り、《貝殻節》は労働の際に唄う海歌であったため、鳥取市賀露町や鳥取市青谷町、東伯郡湯梨浜町の泊等にも存在する。これらの地域の《貝殻節》についても可能な限り収集し、データベース化を図っていきたい。

３．竹中義範氏への聞き取り調査

2016（平成28）年８月４日㈭、《正調　貝殻節》の唄い手である竹中義範氏の自宅にて聞き取り調査を、浜村温泉にある映画制作会社の「ことるり舎」の協力を得て実施した。竹中氏には実際に唄ってもらい、その映像を収集した。聞き取り調査では、「浜村温泉貝がら節保存会」の発足した経緯や《正調　貝殻節》の歌唱のコツ、竹中氏のライフヒストリー等について明確にすることができた。

４．教材開発

地域社会の変化に伴い、日本の民謡の普及ならびに継承には、学校教育の果たす役割が期待されている。とはいえ、日本の民謡には、こぶしであったり、喉を詰めたりしたり独特の唄い方があり、範唱できる教師は限られる。また、民謡は本来、口頭伝承で伝えられてきたため、学校教育の授業となると、集団で指導することになり、指導法についても確立されていない。そこで、本研究では、鳥取大学附属小学校等の協力を得ながら、《貝殻節》の教材DVDを作成し、それを活用した有効な指導方法を明らかにする。その成果については、『《貝殻節》指導法ハンドブック』としてまとめ、多くの教師が無理なく《貝殻節》の実践ができるよう支援していきたい。

謝辞

本研究を行うにあたり、鳥取市気高町総合支所地域振興課ならびに「ことるり舎」からのご協力を得ています。

また、研究助成金を賜りました一般財団法人カワイサウンド技術・音楽振興財団に心より感謝申し上げます。

参考文献

１）太田綾香・大谷美佳・宮脇可南子・安田彩花・鈴木慎一朗「鳥取市の学校教育における《貝殻節》の教育実践に関するアンケート調査報告」『地域教育学研究』７巻１号、鳥取大学地域学部地域教育学科、2015年、72－77頁。

２）文部科学省教育課程企画特別部会「論点整理」2015年８月26日、39頁。
http://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/__icsFiles/afieldfile/2015/12/11/1361110.pdf
（2016年11月３日閲覧）

３）鈴木慎一朗「三上留吉のライフヒストリーと《貝殻節》：SPレコードによる地域創造のための宣伝歌」『音楽表現学』Vol.12、日本音楽表現学会、2014年、15－26頁。

４）鈴木慎一朗・大野桂「《貝殻節》の教育実践の現状と課題：鳥取大学附属小学校の2014年度の実践から」『地域学論集』第12巻第１号、鳥取大学地域学部、79－91頁。

５）上治美弥・岡西真理子・岸本彩香・山田彩奈・鈴木慎一朗「《貝殻節》の継承に関する調査報告」『地域教育学研究』８巻１号、鳥取大学地域学部地域教育学科、2016年、103－107頁。

６）新修気高町誌編纂委員会『新修　気高町誌』2006年、661頁。